

じじゅん かんれき 耳順にはほど遠き還暦を迎えて

私事で恐縮ですが、去る8月23日に還暦を迎えました。満60歳です。

「還暦」とは、干支が一巡し誕生年の^{えと}干支に還ることからその名があるもので、最初の長寿のお祝いとされています。しかし、世は超高齢社会。60歳は多くの会社などで定年退職の年齢ではあるものの、まだまだ働き盛り。長寿のお祝いをと言われても、ピンとこないのが正直なところです。

ところで、干支が60年で一回りするの、干支を構成する^{じっかん}十干と^{じゅうにし}十二支の組み合わせが10と12の最小公倍数である60通りあるからです。今年の干支は「^{つちのとい}己亥」。当然、私が生まれた昭和34年も「己亥」です。これらの数字の組み合わせは年月や時間の単位とも重なります。太陽の運行を基礎にして定まる一年が、月の運行で決まる一か月のほぼ12倍であることから十二進法が考えられ、それと十進法の組み合わせで時間の六十進法が使われるようになったのであろう、とされています。そう考えると60歳は太陽や月の運行に関連し、人生においても大きな節目になるべき年なのかも知れません。

60歳は「耳順」とも言われます。孔子が自分の人生を振り返り、「六十にして^{みみしたが}耳順う」と言ったところから取られています。60歳になると「修養を積んで他人の意見に反発を感じず、素直に耳を傾けられるようになる」という意味です。孔子の人生と比べても仕方ありませんが、なかなかその境地に達しうるのは困難のように思います。せめて孔子の20年遅れとして、四十ならぬ「六十にして惑わず（^{ふわく}不惑）」くらいはしっかりと心がけてまいりたいところです。

「還暦」には、一種の生まれ直しの意味もあります。そのため、「赤ちゃんに戻る」ことから「赤いちゃんちゃんこ（袖なし羽織）」を贈ってお祝いする慣習が生まれたようです。

元号も改まり、新しい令和の時代が始まりました。第二の人生のスタートとして、原点に返った新鮮な気持ちで、前を向いて力強く歩んでいきたいと思っています。

